

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

内海中学校区	校番 64	福山市立内浦小学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・一人一人が自分の目標をもって学習に臨み、主体的・意欲的に活動している。子ども主体の学びに向けたきめ細やかな取組が行われている。 ・学校のさまざまな取組について地域・保護者の理解が得られるよう、今後も子どもの姿をはじめとして、積極的に情報発信する必要がある。	児童生徒の現状 ・児童・生徒は落ち着いて授業に臨んでいる。 ・自ら考えたり、自分の思いや考えわかりやすく表現したりすることが十分ではない。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「協調性」「チャレンジ精神」 内海を愛し、自ら考え、自ら行動できる児童・生徒 ○基礎学習の定着を図る ○思考力・表現力・判断力の育成を図る ○基本的な生活習慣を確立する ○自己肯定感や自己効力感を高める ○多様性を受け入れる態度を養う ○主体的・協動的で深い学びが起きる授業
--	--	---	--

III 自校

ミッション 自分がすき、学校がすき、地域がすきな子どもを育てる
学校教育目標 自ら学び 共に伸びる
現状 <児童生徒> ・興味・関心がある領域については意欲的に学習に取り組むことができる。 ・苦手なことにもあきらめず挑戦することができる。 ・学習したことを活用したり、自分の言葉で説明したりすることに課題がある。 ・地域を教育資源とした授業づくりにより、故郷を知り、愛着を持っている。 <授業> ・児童は、意欲的に学習活動に取り組むことができるが、極めて少人数のため、多様な考えを出すことが難しい。 ・振り返りの視点に沿って振り返りを書くことができた。しかし、振り返りの中で自分の学びの成長に気づくことができていない。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		「問題解決能力」	「コミュニケーション能力」	「協調性」	「チャレンジ精神」
めざす子ども像	小学校 1学年 2学年	○学習や生活の中から課題を見つめることができる。(思考力) ○より良い解決方法を考えることができる。(判断力) ○考えたことを反だちに伝えることができる。(表現力)	○相手の話を最後まで集中して聞き、自分の思いを伝えることができる	○学習や生活の場面で、仲間の良さに気づくことができる。	○自分がやるべきことを決め、自ら進んで最後まであきらめずに取り組むことができる。
	小学校 3学年 4学年	○学習や生活の中から課題を見つめることができる。(思考力) ○より良い解決方法を考えることができる。(判断力) ○考えたことを反だちに伝えることができる。(表現力)	○相手の考えを受け止め、自分の考えを伝えることができる。	○仲間の良さを見つけたり、違いや多様性に気づくことができる。	○目標を決めて、自分がやるべきことを決め、自ら進んで最後まであきらめずに取り組むことができる。〈苦手なことや難しいことに挑戦する〉
	小学校 5学年 6学年 中学校 1学年	○学習や生活・社会の中から課題を見つめることができる。(思考力) ○課題解決に向けてより良い方法を選択することができる。(判断力) ○考えたことを反だちや地域の人に伝えることができる。(表現力)	○お互いの意見を出し合いながら、より良い考えをつくりだすことができる。	○仲間の良さや多様性に気づき、互いを認め合うことができる。	○目標を決めて、自分がやるべきことを決め、自ら進んで最後まであきらめずに取り組むことができる。〈自己の認識(アイデンティティ)の確立を目指す〉
	中学校 2学年 3学年	○学習や生活・社会の中から課題を見つめることができる。(思考力) ○課題解決に向けてより良い方法を選択することができる。(判断力) ○考えたことを反だちや地域の人に伝えることができる。(表現力)	○お互いの意見を尊重し、多様性を受け入れることにより、新しい価値を作り出すことができる。	○仲間の良さや多様性に気づき、自己の良さや多様性を認め合うことができる。	
研究	テーマ 「自ら学ぶ」授業づくり ～学ぶ楽しさを実感できる対話の工夫～ 内容等 児童の興味関心に基づく課題設定・課題解決に向けた探究的な活動・自己の成長に気付く振り返りを通して、学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ力を育成する。	めざす授業の姿 ・子どもが「やってみよう!」「なぜ?」と思ったことをもとに課題を設定する授業。 ・自ら既習内容をもとに解決の方法を考えたり、異学年と学び合ったりして考えを深める授業。 ・自ら学びを振り返り、自分の成長に気付く授業。 ・振り返りを通して、次の学びへの意欲につながる授業。			

IV 目標・取組及び、評価指標等の設定と評価

福山市立内浦小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	□達成 評価	□改善 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	□達成 評価	□総合 評価	改善方策	
4	「自ら考え学 ぶ授業」の推 進	★	見 直 し	学ぶ楽しさを実感 し、主体的に学ぶ力 を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心をもとに課題を設定し、解決方法を自ら考え、選択する場を設定する。 ・異学年との学びを設定する等、考えを深める工夫をする。 ・自ら学びを振り返り、自分の成長に気付くとともに、次の学びへの意欲をもつために、ポートフォリオを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『「やってみよう」』『「なぜ」』と思ったことをもとに課題を見つけることができた。」「今までに習ったことをもとに解決方法を見つけることができた。』と言える児童85%以上。 ・「自分の考えとその理由を伝えることができた。』と言える児童85%以上。 ・「自分のがんばりについてふりかえることができた。」「次にやってみようことを見つけることができた。」「授業が楽しい、学びが面白い』と言える児童85%以上。 	<p>□毎日授業づくりの時間を確保し、児童が「やってみよう」「なぜ」と思っていること、既習内容の定着度に合わせた学習の進め方等、個に応じた指導の工夫や、学ぶ楽しさを実感できる対話の工夫について意見交流を行った。この授業づくりの時間で得た指導の工夫を生かし、主体的な学びに取り組んだことで、児童の学習意欲が向上し、主体的に学ぶ力を育成することができた。</p> <p>『「やってみよう」』『「なぜ」』と思ったことをもとに課題を見つけることができた。』と言える児童は75%だった。「今までに習ったことをもとに解決方法を見つけることができた。』と言える児童は87.5%だった。</p> <p>□「自分の考えとその理由を伝えることができた。』と言える児童は100%だった。</p> <p>□授業の終末に振り返りの時間を確保し、分かった点や分からなかった点を見直したり、できるようになったことを振り返りに書いたりすることを継続したことで、自分の成長に気付き、次への学びの意欲を持つことができ、主体的に学ぶ力を育成することができた。「自分のがんばりについてふりかえることができた。』と言える児童は87.5%だった。「次にやってみようことを見つけることができた。』と言える児童は75%だった。「授業が楽しい、学びが面白い』と言える児童は87.5%だった。</p>	3	3	児童の興味関心をもとに、課題を設定し、解決方法を自ら考え、選択する場を設定する。	<p>□授業づくりの時間を確保し、児童が「やってみよう」「なぜ」と思っていること、個に応じた指導の工夫や、学ぶ楽しさを実感できる対話の工夫について意見交流を行った。</p> <p>◎『「やってみよう」』『「なぜ」』と思ったことをもとに課題を見つけることができた。』と言える児童は87.5%だった。「今までに習ったことをもとに解決方法を見つけることができた。』と言える児童は87.5%だった。</p> <p>□全校学活、算数や道徳の終末に授業の振り返りを交流することや高学年主催の読み聞かせ等の学習を通して、異学年との学びを設定し、考えを深める工夫をすることができた。</p> <p>◎「自分の考えとその理由を伝えることができた。』と言える児童は87.5%だった。</p> <p>□授業の終末に振り返りの時間を確保し、分かった点や分からなかった点を見直したり、できるようになったことを振り返りに書くことを継続したりしたことで、自分の成長に気付き、次への学びの意欲を持つことができ、主体的に学ぶ力を育成することができた。</p> <p>月末にポートフォリオの作成や活用の仕方について意見交流を行い、ポートフォリオを活用して授業を行ったことで、次への学びの意欲を継続させることができた。</p> <p>◎「自分のがんばりについてふりかえることができた。』と言える児童は87.5%だった。「次にや</p>	4	4	4	児童の興味関心をもとに、課題を設定し、解決方法を自ら考え、選択する場を設定する。

										ってみたいことを見つけることができた。」と言える児童は87.5%だった。「授業が楽しい、学びが面白い」と言える児童は87.5%だった。				
		継続	進んで体力づくりをするための基礎となる資質・能力を育成する。	自ら体力づくりの目標を設定し、楽しみながら外遊びをしたり、毎日のトレーニングタイムで体力づくりをしたります。	「体力づくりの目標を設定し、継続して取り組むことができた。」「体力づくりの目標が達成できた。」と言える児童85%以上。	<input type="checkbox"/> 児童一人一人が新体力テストに向けて目標と、その目標に向けてどのような練習をするかを決め、がんばったことを振り返ることができた。「体力づくりの目標が達成できた。」と言える児童は100%であった。	4	4	新体力テスト再測定に向け、チェック表に自分のがんばり度を記入する。トレーニングタイムを設け、楽しみながら体力づくりを継続する。	<input type="checkbox"/> 新体力テスト再測定に向け、チェック表にがんばり度を記入することができた。また、なわとびやボール投げ等、トレーニングタイムに楽しみながら体力づくりができた。 ◎「体力づくりの目標を設定し、継続して取り組むことができた。」「体力づくりの目標が達成できた。」と言える児童はともに87.5%であった。	4	4	4	今後も、トレーニングタイムを設け、自分のがんばり度をチェック表に記入し、楽しみながら体力づくりを継続する。
4	市民一丸となった取組の推進	見直し	「自分がすき、学校がすき、地域がすき」な児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源を活用し、SDGs 14「海の豊かさを守ろう」に取り組む。 地域とつながる学びを学期に1回以上実施する。 	「自分が地域のために役に立っている。」「自分がすき、学校がすき、地域がすき」と言える児童85%以上。	<input type="checkbox"/> アマモの養生やふくろうの花畑見学、地域の方に内浦のお気に入りの場所をインタビューする等、地域の教育資源を活用した協働的な学習を行うことができた。また、内浦小の学校の名前と歴史（校舎の移り変わり）について調べたことを発表したり、内浦小の航空写真をもとに模型を共同制作したりした。また、地域の教育資源を活用し、アマモから種を採取してアマモを増やす活動や海のごみ拾い等、海の豊かさを守る活動に取り組むことができた。「自分が地域のために役に立っている。」と言える児童は87.5%であった。	3	3	地域のことについて調べたことを発表して、自分達の家族に知ってもらったり、地域の海や島の環境を守るためのゴミ拾いをしたり、地域との交流を深めたりすることで、「自分がすき、学校がすき、地域がすき」な児童を育成する。	<input type="checkbox"/> 地域のことについて調べたことをうしお祭で自分の家族に発表することができた。また、アマモを増やす活動や海のごみ拾い、水仙の里清掃等、地域とつながる学びを学期に1回以上実施することができた。 ◎「自分が地域のために役に立っている。」と言える児童は87.5%であった。	4	4	4	地域のよさを伝えることや海の豊かさを守る活動を、さらに探究的に行い、地域貢献することを考え活動することで「自分がすき、学校がすき、地域がすき」な児童を育成していく。
	市民一丸となった取組の推進	継続	保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。	月1回以上、学校だより・学年だよりの発行、HPの更新を行う。	保護者アンケートによる「学校の取組がよくわかる。」という肯定的評価85%以上。	<input type="checkbox"/> 学校だより・学年だよりを月1回発行、運動会や参観日の様子を学習端末で記録し、保護者に公開、ホームページを更新し、学校の取組を発信することができた。「学校の取組がよくわかる。」の肯定的評価は100%だった。	4	4	学校の取組を、学校便り、学年だより、校内掲示、ホームページでタイムリーに知らせていくことを継続する。	<input type="checkbox"/> 学校だより・学年だよりを月1回発行、ホームページを更新し、学校の方針や取組を、タイムリーに発信することができた。 ◎保護者アンケートによる「学校の取組がよくわかる。」という肯定的評価が100%となり目標を達成することができた。	4	4	4	保護者や地域の方が来校した際に、連携を密にし、学校の取組や児童の様子について話す機会をったり、学校行事の様子を分かりやすく知らせたりしていく。

3	子どもの学びを支える教育環境の整備	見直し	勤務時間 7 時間45分を意識した教育活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりを行う時間を確保し、教職員が学びについて対話をする機会を設定する。 週1回の懇会で行事予定等を確認し、業務の見直しをもつ。 	時間外勤務時間 年間360時間(月平均30時間)以内 教職員100%。	<input type="checkbox"/> 2か月分の月中行事予定表の配布、週1回の懇会での行事の確認により、教職員が見直しを持って時間管理を行うことができた。また、校務支援員を活用することで、授業づくりを行う時間を確保し、学びについて対話をする機会を設定することができた。時間外勤務時間が月30時間を超える教職員は0人だった。	4	4	月中行事予定表の配布、週1回の懇会により教職員が見直しを持って時間管理を行って行く。また、校務支援員の有効活用、業務改善の熟考により、授業づくりを行う時間を確保し、教職員が学びについて対話する機会を設定することを継続する。	<input type="checkbox"/> 月中行事予定表の配布や週1回の懇会での行事予定等の確認により、教職員が業務の見直しを持って時間管理を行うことができた。また、校務支援員の有効活用、業務改善の熟考により、授業づくりを行う時間を確保し、学びについて対話する機会を設定することができた。 ◎時間外勤務時間年間360時間(月30時間)を超える教職員は0人で、目標を達成することができた。	4	4	4	日々の業務の中での気づきやアイデアを日常的に職員室で交流し、校務分掌の見直しや業務改善の熟考を全教職員で行うことで、授業づくりを行う時間を確保していく。
		継続	内海中学校区・千年中学校区との交流事業を推進する。	内海中学校区・千年中学校区との授業交流や合同行事等の機会を生かし、積極的に児童同士の交流を行う。	内海中学校区・千年中学校区との交流で「自分から楽しく交流したり、考えを深めたりできた。」と肯定的に回答する児童85%以上。	<input type="checkbox"/> 小中合同遠足や他校との生活科や外国語科の時間などを通して、交流したり、考えを深めたりできた。」と肯定的に回答する児童が87.5%であった。	3	3	他校との生活科・体育科・総合的な学習の時間の交流等を通して、児童同士の交流を行うことができた。しかし、すべての交流を対面で行うことができず、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの交流もあったため、自分から楽しく交流したことを実感させることが不十分だった。 ◎「自分から楽しく交流したり、考えを深めたりできた。」と肯定的に回答する児童が75%であった。	3	3	3	今後も対面だけでなく、オンラインでも他校と交流をもち、主体的に関われる活動を仕組む。 お互いの学校のよさや学びの成果を交流することで、他校の児童と自分から積極的に関わろうとする児童を育成していく。	

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。